

まちのキラリびと



発足以来、50年以上一度も事故なく、秩序ある狩猟活動の発展に努めています

(一社) 福井県猟友会敦賀支部
支部長代理・敦賀市有害鳥獣捕獲隊

竹内 英男 さん

狩猟文化を広く発信し、身近に感じてもらいたい

猟友会は、安全に正しく狩猟に携われるように、指導や技術講習会などを行う団体です。市民の皆さんとの関わりとしては、野生動物による人や財産に対する被害を防ぐため、農地などに出没した有害鳥獣の捕獲に携わっています。

狩猟というと「猟銃」をイメージされるところですが、くくりわなや檻なども使います。いずれも扱うためには狩猟免許が必要です。

私は農業を営んでおり、イノシシなどによる農作物への被害を減らすため、狩猟免許を取得しましたが、狩猟そのものに興味を持たれる方や、クレー射撃などを通じて狩猟に興味を持たれる方など、狩猟への入口はさまざまです。

有害鳥獣の捕獲や猟友会の活動に時間を割かれることもあります。農家の方から「被害が減ってうれしい。農業を続けていこうと思う」と喜んでもらえるのが私の一番のやりがいとなっています。

本会は高齢化が進んでいます。近年若い人も入会してくれるようになっています。こうしたメンバーが活躍できるように技術継承にも力を入れていきたいと思っています。

今後は、もっと広く市民の方に知ってもらい、狩猟に興味をもってもらえるよう開かれた猟友会を目指していきます。



▲くくりわなを仕掛けるところ



▲新人研修で新規免許取得者に技術講習を行うところ

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人
学芸員 坂東 佳子

知られざる天狗党
関連エピソードです！



▲天狗党騒動図

基本情報

種別：有形文化財（建造物）
【令和2年指定】
所在地：松原町



水戸烈士記念館
(天狗党が監禁された旧鯉蔵)

天狗党と渋沢成一郎

元治元年（1864年）12月11日、新保に陣を構えた水戸の尊王攘夷過激派・天狗党と、その討伐軍との交渉が加賀藩の仲介のもと始まります。真冬の気候に加え、村人が逃げ去った山間の村では食糧調達も厳しく、包囲網も狭まるなか、時が経つほど天狗党側が不利になり、何より対峙する相手が頼みとしていた一橋（徳川）慶喜と知り、18日、天狗党は武装解除し降伏する道を選びました。

さてこの交渉中、一橋慶喜側の陣営で、慶喜の手足となって働いていたのが今話題の渋沢栄一のこと。渋沢成一郎（喜作）です。成一郎は慶喜の使いで福井に行った帰り、天狗党がいる木ノ芽峠を通ることが出来ず、海側の東浦から敦賀に入ろうとしたところ、警備をしていた小浜藩に天狗党と間違えられ捕らえられてしまいます。幸いにも敦賀に顔見知りの藩士がおり誤解は解けました。成一郎が捕まった12月11日は天狗党が新保に到着したばかりで、明日にも戦争勃発かという時期。「白刃」（抜き身）を持つ殺気立った武士たちに囲まれての敦賀入りでした。成一郎はこの後、彰義隊頭取となり、旧幕府軍として函館で戦い、維新後は渋沢栄一とともに近代経済の発展に尽くしたなかなか豪胆な人物ですが、ここでは「最早死すべく所」（死ぬかと思つた）と感想を述べています。

同じ尊王攘夷の志を持ちながら、明治維新の礎となった天狗党と、新しい時代を切り拓いた渋沢たち。天狗党事件をきっかけに多くの人々の人生が、ここ敦賀で交錯していたのです。

広報担当者のつばき

今回表紙に使った聖火リレーの取材に行きました。天候は、まさに晴天で撮影日和でした。57年ぶりで、かつ、おそらく生涯最初で最後の生で見られる聖火リレーだろうということもあり、桜ゴールド色のTシャツを持って笑顔で走るランナーの姿がとても印象的で感動しました。(K)

マイカメラを購入して約1年。購入後しばらくは「カメラの腕を磨くためにプライベートでもたくさん写真を撮るぞ!」と意気込んでいましたが、最近は基本的にデスクの中で眠っています…これではまずい! ということで、昨年苦戦したホテルの撮影に再挑戦してみようかとひそかに計画中です。(M)